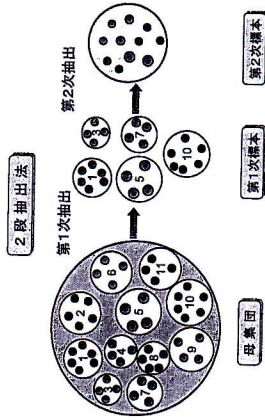


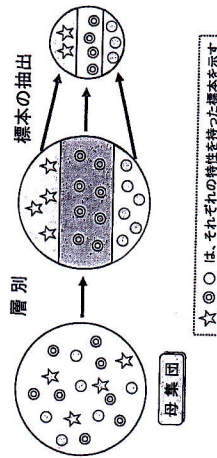
■ 多段抽出法

母集団が全国規模に相当するような大がかりな調査の場合には、標本抽出の作業量は膨大になるため、多段抽出法が利用される。その方法では、母集団を無作為に支障を来さない何らかの基準で群分けを行い、その群の中からまず一定数の群を無作為に抽出する。抽出した各々の群をさらに細かい基準で群分けを行い、その小群の中から、無作為に一定数を抽出する。このような過程をくり返して、膨大な情報から統計処理に適した一定数の標本を偏りなく抽出する方法である。抽出段階はいくくかに設定してもよい。例えば、全国規模の調査をする場合、はじめに都道府県を抽出し、次に市町村を抽出し、さらに地区を抽出し、最後に個人を抽出するなどの方法がとられる。下図では、簡単な二段抽出法の例を示す。



■ 層別抽出法 (層化抽出法)

層別抽出法は、調査対象とする事象が、ある特定の人口層によって影響されると分かっていない場合に、それぞれの人口層から満遍なく対象個体を選ぶ必要がある場合に利用される。例えば、国民の生活満足度調査を実施するとした場合、母集団としての国民全体を、年齢階層別や所得階層別、都市階層別 (大都市、人口10万人以上の市、人口10万人以下の市・町・村など) などに、あらかじめ区分しておき、それぞれの層・区分から偏りなく無作為に標本抽出することになる。なお、対象個体をこのように層・区分に分類して取り扱うことを層別化という。下図の例では、特定の個人特性で、母集団を層別化しておき、各層から、一定の割合で無作為に標本抽出する例を示す。



抽出方法	無計画抽出	メリットとデメリット
	<p>応務法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新聞や広報などで応募者を募って標本を抽出する方法 <p>機械法 (スノーボール法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調査者の知り合いや勤務先などに依頼して標本を抽出する方法 <p>計画抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●母集団を代表すると考えられる典型的なケースを調査者の判断によって選ぶ方法もある ●割当 (クォータ) 法 ●属性ごとに母集団を分けて標本を抽出する方法 	<ul style="list-style-type: none"> ●無作為抽出が困難な場合に用いられる。予備調査などに適している ●対象集団の偏りが避けられず、母集団を代表する標本が抽出できることは限らない

表2 有意抽出の方法

◆ 横断調査と縦断調査

⑪ 横断調査と縦断調査

☆☆

横断調査……—時点における社会の状態を明らかにするための調査。

縦断調査……—一定の時間間隔において繰り返し調査を行い、社会の変化などを明らかにするための調査。次のような方法がある。

- ① コーホート調査 同時期に生まれた人口集団を追跡して同じ内容の調査を繰り返し行う縦断調査の方法。
- ② パネル調査 1回目に調査した相手と同じ相手に繰り返し調査を行う縦断調査の方法。
- ③ 傾向調査 定期的に同一一定義の集団に繰り返し調査を行う縦断調査の方法。

◆ 自計式調査と他計式調査

⑫ 調査員の記入方法

☆

- 自計式 (自記式) ……調査の回答者が自ら質問紙に回答を記入する方法。
- 他計式 (他記式) ……対象者に聞き取りを行い、調査員が質問紙に記入する方法。